



あま市美和・甚目寺歴史民俗資料館だより

ニューズレター

平成 28 年 3 月

No.006

編集・発行

美和歴史民俗資料館

(生涯学習課 文化振興係)

〒490-1292

愛知県あま市花正七反地 1

電話 (052) 442-8522



勤労奉仕 (昭和 17 年頃)

画像提供 あま市立七宝小学校

現在の市立七宝小学校の前身である七宝村国民学校時代に撮影された一枚。昭和 11 年完成の木造 2 階建ての七宝小校舎 (あま市七宝町桂) を背に、稲の収穫作業を手伝う女子児童たちの姿がある。

戦中の労働力不足を補うため、国民学校に通う児童たちが勤労奉仕のもとに農作業等に携わった。学業のかたわら農繁期には周辺農家へ出向き麦刈り、田植え、稲の収穫などに従事するが、時に甚目寺国民学校のように陸軍飛行場 (清須) の建設にも携わる場合もあったという。

現在の七宝小に残る国民学校時代 (戦中) の記録では、勤労奉仕は昭和 17 年の秋からはじまり、翌年には春の麦刈りと田植え、草取りなど徐々にその回数を増やす。その間の古釘・アルミの回収、戦時貯蓄の奨励など、楽しいはずの学校生活にまでも戦争の影が忍び寄る様子がかいま見ることができる。ちなみに昭和 18 年には、疎開児童の受け入れにより全校児童が 1100 名超とマンモス校になったことも同校の歴史の中で特筆すべき史実であろう。

*資料館では昭和 40 年以降の市内で撮られた写真の収集をはじめました。何卒ご協力のほどを！

平成 27 年度 事業報告

〈1〉文化財に関すること

県天然記念物 下萱津フジ 一般公開

およそ 2 日間で 540 名の見学者を得た。開催にあたり下萱津区老人クラブならびに河村産業所の協力を得た。

「二十五菩薩お練り供養」と「二十五菩薩面」を市指定文化財に

蜂須賀地区の蓮華寺にて毎年 4 月第 3 日曜日に行われる「二十五菩薩お練り供養」を無形民俗文化財に、同寺の所蔵する菩薩面 25 枚も一括して新たに文化財となった。

尾張西部のオコワ祭調査報告書 刊行

七宝町下之森と愛西市勝幡の両地区で行われる同祭の調査報告書が完成した。

〈2〉企画展示会

期間	展示会名
2/28～5/16	収藏品展 春の掛け軸展
6/1～6/30	第 25 回 ときのきねんび展
7/18～9/21	夏の企画展 あま市と戦争展
11/1～12/6	館蔵浮世絵展 武者絵・合戦絵を中心に
3 月末日～	山田双年作品展

〈3〉歴史散策事業 アルケミスト

実施日	内容
4/19	春の息吹とあまの祭り
5/2・3	下萱津のフジと周辺の散策
7/12	西今宿と観音朝市
8/21	香の物祭見学と萱津宿（歴史ガイド用）
10/24	古刹をめぐる 甚目寺と新居屋
11/14	*八開地区の散策（雨で中止）
11/28	七宝焼の里をめぐる 遠島と秋竹
3/22	あま市南部を歩く（巡回バス利用）

*は海部歴史研究会の主催する散策事業に協力した。

〈4〉水文化継承事業 エコきつず調査隊

実施日	内容
7/4	田んぼの学校
7/21	水質調査（地元河川）
8/3	木曾川の水生物調査
8/22	まとめ&エコきつずサミット

対象は市内の小学生。本事業は官田用水利土地改良区、国土交通省木曾川下流事務所の協力により実施した。

〈5〉講演会事業

実施日	演題	講師
5/16	移りゆく甚目寺観音と祭事	甚目 昌氏
6/21	*戦後 70 年事業	大島静雄氏
9/12	あまのかわ その 1	日比野友亮氏
9/13	あまのかわ その 2	同上
1/31	海東郡富田町の歴史と文化	安立満裕氏
3/6	*尾張の新田について	石田泰弘氏他

*海部歴史研究会の主催する講演会事業に協力した。いずれも弥富市社会教育センターで開催された。

〈6〉文化体験講座事業 トイナオス

実施日	回数	講座名	講師
6～2 月	10	古文書解読講座	藤井智鶴氏
10～11 月	4	坐禅に学ぶ	山田泰信氏
12 月 20 日	1	しめ縄教室	竹田武夫氏
3 月 6 日	1	勾玉づくり	竹田繁良氏

〈7〉検定事業（主催は実行委員会）

ジュニア検定（小学 6 年生児童対象）

市内の全小学校校で実施した。対象となる 6 年生児童に出前授業（12 月～1 月）を行い、2 月初旬に各校でジュニア検定を授業として実施した。

ものしり検定（中学生以上）

申し込みは 32 名。今年度は初級編と上級編を実施した。初級は四択 50 問、上級は四択 25 問に筆記となる。合格率は 66 パーセントであった。

ものしりジュニア選手権

ジュニア検定で学んだ知識を発揮する場としてクイズ選手権を実施した。児童 80 名が参加した。

〈8〉学習支援活動

移動博物館

収蔵資料より当地域の生活に関わり深い、暮らしの道具を 8～12 点ほど学校に展示し、3 年生児童を対象に授業（1 時限）を行った。

〈9〉ガイドボランティア養成事業

希望者に 1 年間にわたりガイドの知識を身につけるべく歴史文化事業に参加してもらう。

つまみぐい郷土史 005
鹿兒島に正則公の墓？

片桐欣也(美和町の歴史を語る会代表)

ここ20年近く毎朝1時間半ばかり、津島上街道を西へ、牧野・寺野(以上津島市)をまわる、いわゆる早朝ウォーキングを続けてきました。挨拶を交わしたりするうち話し込んだりする方々も何人かできましたが、そのお一人、北苅の田んぼ道で時折お会いする瀏脇さん(篠田地区住)という方。お尋ねすると九州は鹿兒島の出身で「実は正則さんのお墓が、私の故郷にあるというのですが…」と。まさに青天の霹靂でした。

福島正則公は旧美和町が生んだ戦国武将の一人。清須城主となり、関ヶ原の合戦の功により安芸・備後50万石を得て広島城へ移りました。しかし家康亡き後、城の無断修築を咎められ信州へ改易され長野県小布施(おぶせ)の地に骨を埋めたことは世の知るところですが、その正則公のお墓が、こともあろうに辺縁も辺縁、九州は鹿兒島の地に…とは。

数日後、いまだ驚きも覚めやらぬ私のもとへ、「これなのですが…」と、「がんばれかせだ」なる冊子をお持ちいただきました。「かせだ」は、瀏脇さんの出身地、鹿兒島県加世田市のこと、この冊子は全国各地に散った同市出身者が、ふるさとリレー随筆集として

いろいろな角度から故郷加世田について思いを綴った冊子でした。

問題の福島正則公の墓については、「悲劇の武将」と題し東京



正則公肖像(複製) 館蔵

都町田の福島さんが書かれています。どうして正則公の墓が、鹿兒島に…、恐らくどなたも御存じない話…。転載の御了解を得ましたので、紹介しますと、

「悲劇の武将」

小湊の西はずれ戸口田の畑の中に、自然石の碑が建てられており「福島正則公終焉の地」と刻銘されている。そこには昔、大人の腕ほどもある大きな幹のツツジが這うように生えており、春になると見事な花を咲かせていたが、福島家以外の者がその花を折ると腹痛を起こすと言い伝えがあり、そこへ近づこうとする者がいなかった。(中略)

徳川将軍の治世、外様大名の取り潰しにやっきになっていた幕府にとって、豊臣子飼いの大名である正則公は、まさに目の上のたんこぶで、広島城の改修を行ったことで幕府の許可を得なかったとして改易になり信州へ蟄居となった。信州で余生を過ごす正則公であったが、かつて関ヶ原の合戦の際、島津勢が東軍に囲まれ進退窮まっているとき、そつと退路を開いた事実を賢明な島津公は察知していたはずと信じ、自身を配所(信州)で死んだことにし、幕府の検死に際しては本人の死体が無い理由について「一天俄に掻き曇り、龍が舞い降りてきて、公の死体は天に持っていった」と申し立てよと言い残し、自身は薩摩へ逃れ現在の小湊で一介の町医者に身をついやし、余生を送ったという。

正則公は六尺豊かの大男であったといわれ、ここより出土した(大正12年に一族が発掘)人骨の大きさから、ここが公の墳墓と判断し昭和16年に当家によって石碑が建立された。

正しく公の墓だとすれば、公は永久に幕府の目を逃れ得たといえようか、その末裔にまで真偽を明確に出来ぬほど、哀れ悲劇の武将と言わざるを得ない。(「がんばれかせだ ふるさとリレー随筆④」より抜粋)

このお話しによれば、正則公はなん

と小布施の地で亡くなってはおらず、実は関ヶ原の合戦で戦った相手方の島津家の本拠地である薩摩へ渡り、そこで町医者として暮らし、この地で亡くなったという思いもよらぬ話でした。さっそく「美和町史」の福島正則編を開いてみると、幕府が検死に赴いたところ、その遺骸はすでに茶毘(ぢび)にふされ、結局検死は出来なかった…とあり、その末路は判然としないことは確かでした。

さらに、関ヶ原の合戦の際には敗色濃厚となった島津勢が、勇猛果敢に東軍の福島勢の堅固な囲みを打ち破って伊勢を抜け、本国に戻ったと伝えられますが、これも正則公が敢えて退路を開いたからで、そのよしみを頼りに正則公は薩摩へ渡ったというのでした。

後日、この筆者である福島さんと連絡がとれ、電話でうかがうと、やはり同家は正則公の末裔であり、本来は父親が供養の石塔をここに建てるはずであったが、早くに亡くなり、結局その遺志をついだ従兄弟たちが「終焉の地」の石碑を建てたそうで、その従姉妹もすでに故人とあって、文中以外の事を語ることでできる人は、もう加世田の地には一人もいないだろうとのことでした。

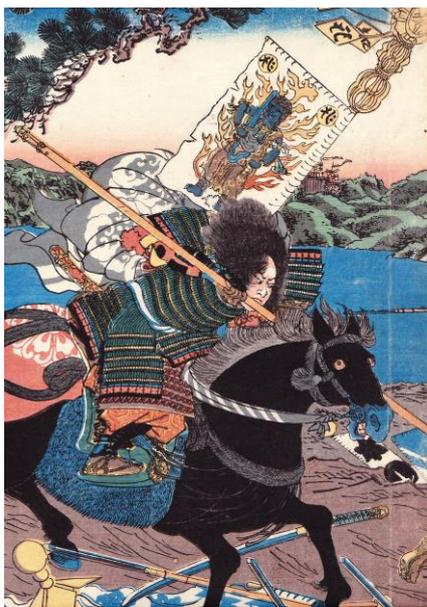
加世田市は市町村合併により現在は南さつま市になっています。興味深い内容にこれらの話を裏付ける資料はないものかと、南さつま市に照会しました。すると僅か数行ですが、「加世田市史」のコピーが送られてきました。

6 福島正則の墓（戸口田）

戸口田の畑の中に古い墓がある。これは遠矢家の先祖墓で、島津の隠れ人であった福島正則の墓と伝えられている。墓の所に福島喜代志が建てた大きな碑がある。昔はここに2、3軒の家があって、上方風的生活習慣であったと伝えられている。

(加世田市史 第14編文化財・人物)

ここにある遠矢家というのも、福島姓だったそうです。明治になって改姓されたもので、文中にある「島津の隠れ人」というのも気になります。正則公が島津公のよしみの人だったのだ、ということをお話する言葉なのかもしれませんが、それも、今となっては残念ながら、はっきりしません。



今回、この場に、お話しをご紹介することになりましたので、お断り方々瀧脇さん宅を訪ねました。すると瀧脇さんご自身も、正則公のお墓の事を知ったのは、この冊子が初めて。しかも正則公の名を知ったのもあま市に来てからで、加世田にいる間に正則公の名は

見たことも聞いたこともなかったということでした。「鹿児島というところは、奇妙なところでしてネ、豊臣秀頼も落ち延びて亡くなったと言っていますからネ」と、さらに興味深い話をうかがうことになりました。大阪城冬の陣、大坂落城で母淀君とともに、城とともに運命を共にした秀頼です。後日、電話をいただき再度お訪ねすると、ネットをしたら出てきましたと「豊臣秀頼の薩摩落ち伝説」という秀

頼の墓もあると記された南日本新聞に掲載された記事を提示いただきました。それによると、

「薩摩を含む南九州はわが国の辺境だけに、中央から亡命者や流罪人がやってきた歴史がある。…宇喜多秀家など枚挙にいとまがない。」

そんななかで、秀頼が真田幸村に守られて薩摩に落ち延びてきたという説が語り継がれるようになって、幕府も薩摩藩に手を焼いたらしいとのこと。

こうなってくると、いつの間にか史跡や墓が出来てしまうものらしく、鹿児島には秀頼の墓と伝えられる石塔が現存する。しかし、調査する人も現れて、この石塔がどうやら鎌倉時代のものらしいとわかり、さる豪族の供養塔だと結論がでていたようでした。が、筆者桐野作人氏は、こういった背後には判官びいき的な願望や哀惜の感情があって無視できない、と結んでいました。

薩摩は辺境の地でした。しかし秀吉の九州征伐、徳川との関ヶ原の戦い、それにたくさんの犠牲者を出した宝暦治水の難工事、その徳川を破って明治政府を作ったものの、西南戦役…、どうやら薩摩は判官びいきの気風？ 十分の土地でした。

さて、わが正則公。「終焉の地」の碑が建ったのは昭和16年、建立者も明らかです。関ヶ原の合戦では豊臣恩顧の諸将を挙げて家康軍に従わせた功は、唯一正則公にあったと伝えられています。しかし、その公が徳川の外様つぶしの好餌となるという「まさに悲劇の武将」でした。

ちなみに関ヶ原で敗軍の将となっ

た宇喜多秀家は、最後は八丈島で没したと言いますが、その秀家が薩摩の地に、ひと時身を寄せていたとも伝えられています。（これは事実のようです）

関ヶ原では勝者の側に立ち功を得ましたものの、改易の悲運に見舞われたわが悲劇の武将も、判官びいきの薩摩が放っておくはずはなく、身を寄せた正則公をあるいはひそかに…。そんなことも十分考えられるところではないでしょうか。また大男の大腿骨と思われる人骨の出土したという加世田の小湊の墓は、はたして秀頼同様判官びいきが生んだ、悲劇の武将哀惜の伝説の墳墓なのか。

はたまた、そこに身を寄せることが出来て、ひそかに一介の町医者としてこの地で生涯を終えた、真実福島正則公の隠れた墳墓なのか…。

つい踏み込んでしまった歴史の小路、出口は残念ながらそう簡単には見つけられそうにはありません…。

何はともあれ、判官びいきの薩摩の東シナ海にの臨むという小湊の地に、正則公が眠ると伝えられるお墓があるというお話しです。一度訪れてみたいものです。



（参考）福島正則公の出生地二ツ寺である菊泉院には正則公 380 回忌を記念し、建てられた供養塔があります。中央の肖像画は菊泉院蔵。

尾張西部のオコワ祭調査報告書

完成！

国の記録すべき無形の民俗文化財であり、あま市の無形民俗文化財であるオコワ祭を愛西市教育委員会と連携し、尾張西部のオコワ祭調査委員会を立ち上げ、3年の調査活動を経て、ついに「オコワ祭」の調査報告書が完成しました。

毎年2月11日、七宝町下之森(しもりの)の八幡社で執り行われるオコワ祭は、蒸したオコワ(お強飯)をお櫃(ひ)に入れ、それを稲藁で編んだ網状のコモに納め、それを厄除祈願年者が境内にある石に打ち付けます。何度も代わる代わる石に打ち付け、コモの中のお櫃を割り、さらにオコワを餅状になるまで叩き続けます。その後参拝者がお櫃の破片と餅状になったオコワを奪いあうといった神事で、現在では愛西市勝幡と当市七宝町下之森にのみ伝わる神事です。このオコワを食すと



病気になるまい、お櫃の破片は家に飾っておけば雷除けになると言われています。



調査報告書はA版の300ページ(うち口絵カラー32ページ)、下之森と勝幡地区の歴史文化も網羅した貴重な一冊です。一部1,500円で頒布しております。お買い求めは美和、甚目寺歴史民俗資料館の窓口へ。

第6回 あま市ものしり検定合格者発表

平成28年3月6日に実施した「あま市ものしり検定」の合格者は、下の通りです。(敬称略) 上級編 永田さき子・古橋雅勝・鈴木ゆかり・白井正俊・近藤紀久・近藤富士子・小島克彦・信岡彦弘・藤田昌平・中ノ瀬君子・大角佳生・熊澤節子・小山昇。初級合格者は伊藤靖彦、成田由美子、横井康平、山内康彰、以上17名です。おめでとうございます。

甚目寺歴史民俗資料館

開館時間	9:00~12:00、13:00~16:00
休館日	水曜日、木曜日
入場料	無料
交通	名鉄甚目寺駅より南に徒歩5分
駐車場	10台
電話	(052) 443-0145
住所	あま市甚目寺東大門8(甚目寺会館3階)

美和歴史民俗資料館

開館時間	9:00~16:00
休館日	水曜日、木曜日(6月は木曜のみ)
入場料	無料
交通	名鉄木田駅より北に徒歩10分
駐車場	20台
電話	(052) 442-8522
FAX	(052) 445-5735
住所	あま市花正七反地1